393
495

歐米に於ける在郷軍人の國民的活動

始

納本
無

歐米に於ける在鄉軍人の國民的活動

393-495

本書の發行に就て

此の一小册子は今年十月十四日本會主催の講話例會に於て、法學博士蜷川新氏がその親しく視察された列國在鄉軍人の國民的活動に就いて述べられたものゝ速記錄で、我國の半可通なる政治家や論客が外人の唱ふる國際主義なるものを誤解し、甚しきは之を據點として軍備の撤廢を說き、以て國家を危道に導かんとする者あるに當り、博士は一々實例を擧げて、その謬見なることを論斷されたのであるが、條理井然として何等疑

大正12.3.19 内交

義を生すべき餘隙はない。在鄕軍人たるもの必ず之を一讀して猛然蹶起し、彼等の爲に過まられつゝある國民の覺醒を促がさねばならぬ。是れ本會が特に博士の同意を得て之を發行し、會員諸士に頒布する所以である。尙ほ博士は華府會議の經緯に論及し、その當事者に對して一痛棒を加へられたるは、軟弱外交を以て時代に適すとする政客をして顏色なからしむるの感がある。乃ち以て緒言とすといふ。

大正十一年十二月

有終會

歐米に於ける在鄕軍人の國民的活動

法學博士　蜷川新述

閣下並に諸君、是より表題の下に私は私の考へて居る所を申述べます。本日は私が華盛頓會議に行きました際、種々見聞し又感得した所を何等の遠慮なく話しせよと云ふ御註文でありますが故に、此處限りとして極めて無遠慮に然も極めて誠實に申上げて見たいと思ひます。但し華盛頓會議の事柄に付ては之を後廻はしとして、表題の如くに今日歐羅巴及び亞米利加に於ける在鄕軍人は各々其の國民の爲めに、如何なる活動を爲して居るかと云ふ問題に付て先づ述べます。此の問題は甚だ重要のものと私は考へます。戰後日本より歐米に出張する人は澤山にあります。乍併殊に在鄕軍人の活動如何と云ふ事項に付て特別の研究をなした人は、私以外にはないと私かに思ひます。

今日私は一九一九年以後の事實を申し上げるのでありますが、自分としては何處迄も最も新しい事實也と信じて居るのである。近來日本より西洋に行く旅行者は、何んの某に何んの國にて會つた所が斯う〻〻云ふ事を說いたとか云つて、之を土產話となさるのであるが、私は單に左樣な浮薄な

る事を諸君に申すのではなくして、休戰以來即ち一九一九年以來歐米に行はれ、現に行はれつゝある事實に付て申述べるのであつて、此等の事實が必ず何かの御參考になる可しと信じて居るものであります。

今日歐米の思潮を支配して居る觀念は何であるかと云ふ事に付ては、日本に於ては色々に論議せらるゝのであるが、日本に於ては、「國民主義より國際主義へ」即ち「ナショナリズムよりインターナショナリズム」へと云ふやうな事を唱へ、某々の學者は新聞其の他に斯かる說を揭げて居る。即ち彼等の云ふ所によれば、ナショナリズムは既に過去のものであつて、インターナショナリズムが即ち現在の思想であると云ふのである。併し乍ら自分の觀る所に於ては、之は甚しき時代錯誤の主張であつて、取るに足らざる說となすものである。インターナショナリズムこそは戰前に大に行はれたりし觀念であつたが、歐米に於ては今日は一轉して、ナショナリズムに變つて居るのである。本來インターナショナリズムと云ふのは、國民と國民との間の境界を取り去つて、一切の國民否な勞働者を團結せしめ、唯だ其の敵とする所は一に資本家と云ふ階級であると云ふ觀念である。即ち國民と國民との爭を止めて、階級と階級との爭に變じようと云ふのが、此のインターナショナリズムの觀念であつて、是が西洋に於て主張せらるゝ所のインターナショナリズムである。此の思想は歐

羅巴に於ては、大戰前非常なる勢を以て行はれたのであつた。然るに日本に於ては此のインターナショナリズムと云ふ觀念を充分理解する人が極めて少くして、之を譯して「國際協調主義」と唱へて居る。即ち世の中を平和にしたいと云ふ主義であると云ふのである。斯くの如くしてインターナショナリズムは即ち國際協調主義也として、此の協調と云ふ事を全然新しい說の如くに說く人が十中十の有樣であるが、併し乍ら其の協調と云ふ事は、歷史上既に極く古い時代より行はれ、無論大戰前にも行はれて居り、戰後にも亦行はれたのである。兎に角協調は古くより行はれたものであつて、例へば國と國との間に通商條約を結べば、其の條約中には協調と云ふことが必ず揭げられるのであつて、斯る事は新しくも何でもない。然るに協調主義は新しき主義なるかの如くに誤解して居る人が日本には非常に多い。斯くの如くに主義其の者の本質を知らずして論ずるのでは問題にならない。インターナショナリズムと云ふ觀念を宜しく先づ明白にして、それに對しナショナリズムの如何を充分明かにするにあらざれば問題の解決は出來ない。インターナショナリズムとは先きに申した如き國境無視の觀念であつて、それに對抗して國民即ちネーションを基礎として立てられたる觀念が則ち是れナショナリズムである。無論半世紀以前にもナショナリズムは學說として伊太利に現はれ、又其の以前に於ても事實として歐洲に存在して居つたのであつた。然るに今日行はるゝ

ナショナリズムは、國民と云ふものを具體的に見、之を基礎として他の國民と對立し、國民は相互に自己の屬する國民全體の利益を圖らうと云ふ思想なのである。國民と云ふ一つの人民の集合團體を基礎として、其の全體の利益其の全體の幸福の爲めに向上せんとする所の一つのデモクラシーの觀念である。ナショナリズムとインターナショナリズムと此の二種の觀念が分れるに從つて、國民の軍備問題も經濟問題も、又其の他の總ての問題も、其の解決する所を異にするのである。インターナショナリズムに依るときは、戰爭と云ふ事は必要はない、インターナショナリズムは國と國との境界を取り去るのであるが故に、國民と國民との對抗反目も無くなり、從つて軍隊も軍艦も必要はないと云ふ事となり、軍人は無用であると云ふ軍人を呪ふの觀念に向ふのは當然である。此の觀念は要するに社會主義者の觀念である。之に反しナショナリズムは、國民と云ふものを基礎とするが故に、此の國民の自我的隆昌を圖る事となり、此の國民と他の國民との競爭は必然に生じ來り、其の競爭は唯單に經濟的のみならず、軍事的にも顯はれ來つて、兩者の對抗は益々激しくなるのである。從つてナショナリズムに依るときは、軍備の觀念が最も盛んである。又此の主義に依るときは、關稅の障壁を設けて、經濟的戰爭の觀念も益々激烈となるのである。歐羅巴に於ては斯の如き國民主義觀念が現今大いに行はれて居るが故に、其の事實並に其の言論と云ふものは、日本に於て行はれて居る所のものとは非常に差があるのである。日本に於ては今や軍隊は必要はないと稱するもの多く、或は軍隊は益々縮小するを可也とし、軍事を重んずるの觀念は、何れの國に於ても段々下り坂であるかの如く考へられて居り、斯かる事を大いに主張するのが即ち學者であり、識者であり、或ひは新人であるかの如くに考へられて居る。此の觀念は米國歐羅巴に於ても、一部人民の間にはないのではない。即ち社會主義者の間に於ては、斯かる說が行はれて居るのである。併し乍ら亞米利加及び歐洲に於て、今日最も國民の思想を支配して居るものは斯かる思想ではなくして、依然として彼等國民の大部分は、軍備の充實、經濟の競爭を唱へ、之を實行しつゝあるのである。日本は間違つて居ると云はんよりも、今や日本人は時代を解せずして、歐米人と違つた言論を爲し、異れる事實を示して居ると云ふのか適當であらう。要するにインターナショナリズムが最も新しき最も良き思想なりと信ずるより來る結果であつて、それに支配されて居るより生ずる結果である。歐米は是に反して、今日の世の中は、ナショナリズムにあらざれば國民は立ちゆかずと云ふ所から、今日の加き國民思想に向つて進みつゝあるのである。日本としては其の根本觀念を改めて行かなければならぬのである。右述べたる所を理論的に唯單に言ひ爭うて居るならば、兩主義者の間に或は水掛論となり了り、貴君の見る所は左樣なるべきも、自分の信ずる

所は斯く〳〵也と稱して、唯單に口舌の爭を爲すに過ぎない虞れあるが故に、玆に私は歐米に於ては、如何にナショナリズムの觀念が旺盛熱烈であるか、又是が如何に歐羅巴及米國に於て、國民の大部分の觀念を支配して居るかに付て、詳しく實例を以て申し述べて見ようと思ふ。而して私の觀察の誤りなき事を證據立てようと思ふ。是に關しても種々なる事實が存在するのであるが、先づ佛蘭西を筆頭とし、獨逸伊太利及北米合衆國の四大國に於て行はれて居る所の現在の事實、即ち一九一九年以來引續き行はれ、且つ爾來益〻盛んになりつゝある所の事實を述べて御參考に供する事としよう。

（一）

佛蘭西には御承知の通りアクションフランセイズと云ふ團體がある。是は本來王黨に屬するものが作つたのであつて、無論大戰爭前にも存在したのであつたが、併し大戰前に於ての此の團體の主張は稍や時代遲れの一種偏狹のものであつて、佛國國民全體の聲としては甚だ弱いものであつた。然るに一九一九年以來アクションフランセイズの唱へる所は、佛蘭西の國民主義其のものであつて、今や此の團體は偉大なる勢力を有して居るのである。而して是はセイヌ縣の有名なる代議士レオン・ドーデが率るて居つて、其の會員の大部分は在鄕軍人と大學生たる青年であるが、一九一九年以來アクションフランセーズは一つの協會として成立するに至り、一つの組織立てるものと成り、全國到處に支部を設けて、今日にては何百萬人と云ふ有力なる會員を包有して居る。其の團體の主張する主義は實に社會主義者を打潰し、共產主義を擊滅して、大いに軍備の充實を爲すにある。即ち一言にして云へば、佛蘭西國民の權利名譽を保護し、以て愛國心を旺盛にしようとするにある。此の團體が然らば大戰以後如何なる活動を爲したかと云ふに、第一休戰以後先づ着手せられたものは、即ち一九一九年五月一日佛蘭西巴里に起れる大同盟罷工の際に空前の大活動を爲した事である。戰爭中は何れの國も國民主義に支配されて居つた事は云ふ迄もなく、國民と國民とは血を流して、四年有半の久しきに亙り戰つたのであるが、戰爭が濟み休戰となるに及び、其處に社會主義者の示威運動が起つて、彼等の口よりインターナショナリズムの說は二たび唱へられ、其の間に乘じ侵入し來つたものが即ち露西亞のボルシエビーキであつて、彼等は此の機會を利用して、歐羅巴を赤化せんと試みた。此の事件に付ては、一九一九年一月頃から佛蘭西の各地到る所に評判であつて、五月一日を以て勞働者が巴里に大運動を起す時には、必ず佛蘭西に大革命生じ來るべしと云ふ事を私は到る處で聞いたのであつた。而して其の五月が近づくに從つて、社會主義者の運動は愈〻激烈となり、有らゆる新聞の調子も益〻激しくなり來つて、外國人は五月一日には外出すべからずと云ふ注

意さへあつた。當時巴里に居つた日本人にして其の日を特に注目し、特に外出した人は恐らく一人もなかつたであらうと私は信じて居る。唯二階から内密に之を見る位の人はあつたが、特に外出した人はなかつた。併し私は斯かる重大の事件を親しく見なければならぬと考へたが故に、佛人より危險なりとの注意を受けたるにも構はず、例の凱旋門の邊りより、有名なるコンコルドの廣場へと同盟罷工者の大示威運動に附いて廻つたものである。其の時の示威運動者は約一千人もあつたと思はるゝが、彼等は例の勞働歌インターナショナリズムの歌を謳つて、歩武堂々と大道を進んだのである。此の日巴里の往來は一人の通行者もなく、無論一輛の車一頭の馬さへも通らない。而して市中を護衛して居つた者は、戰線より呼び寄せられた武裝せる兵士であつた。併し乍らクレマンソー首相の周到なる注意によつて、武裝兵士の彈藥盒には彈丸を入れさせなかつたのである。私は特に一兵士に近づき、其の彈藥盒を開いて見たのであるが、彈丸は一發もなかつた。是は注目すべき事實であつたのである。兎に角武裝した兵士が到る處護衛の垣を作つて居り、同盟罷工者は之に對して右に折れ左に曲つて、成るべく衝突する事を避けて進行したのであつたが、遂にコンコルドに於て衝突したのである。而して示威運動者はコンコルドの廣場に流れ込んだ。其の時之を追拂つたものは、騎兵隊の馬と蹄とであつた。騎兵隊は初めにはセーヌ河畔の樹蔭下に馬より降りて靜かに控へて居つた。チユイルリーの宮殿構内にも亦澤山の騎兵は居つた。然るに同盟罷工者が鬨の聲を擧げてコンコルドに突入したのを見て、騎兵は乃ち馬を飛ばして群集の中間に馬を進め入れ、馬の臀を向けて群集を押して行つたのであつた。其の時既に少しの衝突はあつたが、其處は文明國の軍人だけに擧動温和であり、馬上の兵士は「諸君は禁じられたに拘らず、斯かる運動をなすは可くない」「散會なさい」と靜に言つて人民に諭しつゝ、馬を以て彼等を押付けると、之に對し同盟罷工者は「兵士萬歳」と口々に呼はりつゝ、衝突を避けて右往左往すと云ふ有樣であつた。彼等は馬の力に敵し得ず、終にコンコルドよりリユー●ロワイヤールの方向に追はれたのであつた。當時在日本の新聞記者或は政治家が、「世界は軍國主義を忌み、資本主義を惡み、ボルシエビーキに支配される、ボルシエビックは世界の大勢である」と論じつゝあつた時に、佛のクレマンソーは共和國の首班として、腕力を以て其の罷工者を押しつけたと云ふ如き、東西全く異なる現象を示したのである。而も是が議會の問題として上程された時に於て、クレマンソーは難なく國民の信任投票を得たのであつた。即ちクレマンソーの武斷政策成功し、社會主義者のインターナショナリズムは、此の時既に全く敗れたのであつた。此の敗北せるに乘じ、是に次で國民的大運動を起し、益々佛蘭西より社會主義的非國民的の群衆を追ひ拂はんと考へたのが、即ち佛のアクションフランセイズであつた。ア

クションフランセイズは之より到る所に貼紙をなし、講演其の他新聞雜誌を以て宣傳し、今日同盟罷工を爲すが果して時機なるや、即ち社會主義者の煽動に委して、國内に資本と勞働の爭を惹き起すが果して當を得たるものなるや、或は又佛蘭西國民全體の利益の爲めに、ヴエルサイユ會議の成果を擧げるが適當なりやを明白なる理論を以て國民に示し、往來の人に其の掲示を讀ましたのであつた。それが爲めに國民の頭が段々とアクションフランセーズの思想に左右されて、同盟罷工者が如何に露西亞の過激派より資金を貰ひ受け、極力運動をなしても、又如何に奇矯の說を立てゝ、新聞を發行し人民を煽動しても、唯一部社會主義者の徒輩が之を聞くに止まつて、大多數の佛國々民は國民主義を奉じ、インターナショナリズムを排斥するに至つた。是の如くして言論の上に國民主義者は勝を制した。

此のアクションフランセイズに屬する所の豫備將校或は在鄕軍人或は青年の行動に關しては、實に感歎すべき事實もありますから、此の事實を左に述べることゝいたしませう。

佛國の同盟罷工者が全然其の業務を拋つ時、例へば鐵道又は電車の運轉手或は切符切或は其の他の者が同盟罷工をなす時は、其の缺を補ふものは即ちアクションフランセーズに屬する青年團或は在鄕軍人團の人々であつて、其の未だ電車又は鐵道の運轉の經驗の無い青年等が、自ら進んで勞働者となり、二三日の經驗の後、運轉其の他の業務に從事して、國民全般のために、必要の機關たる交通機關の杜絕を救つたのである。則ち勞働者が資本家に對抗して賃金問題等を主張する時、言ひ換へれば彼等の利己的なる主張を爲す時に、アクションフランセーズに屬する青年等は、佛蘭西國民全體の利益を念として大活動を開始する。無論自己の學業や利益は、全然國民の爲めに犧牲に供するのである。之れ感ずべき事である。それ故に此の公正なる觀念が遂には凡ての勞働者の胸底に迄も泌み込んで、勞働者等は、吾々は十時間働いても可なり、十二時間働いても亦可なりと云ふもの續々と出て來て、罷業勞働者は自己の賃金を失ふ以外に、何等得る所なきに至つたのである。而して過つて汽車に觸れて轢殺され、國家より表彰されたる青年學生さへもあつたのである。是は里昂附近に生じた事實で、從來世界で見なかつた所の新しき現象也と私は認めるのである。佛蘭西人自身の云ふ所に依れば、之れ亦無論初めての現象である。私か大戰爭前歐洲に於て、勞働問題に付て常に注意して調べて居つた時分にも、斯の如き感賞すべき問題はなかつたのである。當時社會主義者の新聞が論じて云ふには、『百年前の佛蘭西大革命の時代には、あらゆる青年は革命者に味方した。然るに今の青年は、其の頭が古くして革命者に反對した。』と。斯く論じて革命主義の新聞は青年に對し、頻りに惡く言つて居たのである。併し乍ら惡く言はれたる青年等は、今や其の頭が國民

主義を以て固められて居るのである。其れ故に彼等青年は佛蘭西國民全體の利益を重しとして、唯だ單に佛蘭西國民の一小部分たる僅に二百萬人の勞働者の利己的利益を犧牲にするを可也とし、無論自己等青年は生命學業一切を犧牲にして働いたのである。それ故に遂に社會は緊張し、社會主義者の聲は日一日と衰へ、勢力なきものとなつた。是は即ち休戰中に於けるインターナショナリズムとナショナリズムの爭鬪であつて、ナショナリズムは此時既に大勝利を得たのであつた。是より以後佛蘭西には時々同盟罷工は起つたが、決して激烈なるものとはならず。戰後世界の人特に佛國を少しも理解せざる日本の人が、佛蘭西は第一に赤化されるであらうと想像したりしに拘らず、佛國は歐洲第一位の非常に堅實なる社會を形成し、其の經濟は日を逐うて恢復せられ、國防も亦充實されて、一九一九年には既に一九一三年の貿易狀態を示し、今日は其經濟も着々として恢復が出來て居るのである。日本に於て佛國の經濟關係を調べて居る人は甚だ少く、英と米との二國のみにて、世界の經濟界は動いて居るものゝ如くに考へて居る實業家が多いのであるが故に、此の佛國の彈力ある經濟を調べる人は殆どない。斯の如く佛蘭西の思想界を救ひ、其の經濟界を立直したものは何であるかと云へば、是れ即ちナショナリズムであつて、決してインターナショナリズムではない。社會主義としては勞働者の同盟罷工は、彼等の云ふが如く彼等の權利であるが故に、何處迄も許さな

ければならぬ筈のものであるが、クレマンソーは先づ之を武力を以て壓迫し、佛國民は輿論を以て之を壓迫した。而して戰後の佛國は明かにナショナリズムの國民として固まつた。是は顯著なる事實であつて、吾々は此の新しき生きた事實を認めなければならぬのである。所が日本に於ては此の事實が少しも知られないのであつて、或知名の紳士に當時此の事實を私が佛國から報告した所が、初は佛國を誤解せるものとして信用しなかつたが、後には段々と事實が判つて、其の人も終には成るほどさうであつたかと首肯するに至つたのである。

此の團體の目的綱領に付て更に述べて見ますと云ふと、此の團體は佛蘭西國民の文化を增進し、佛蘭西國民の秩序を維持し、佛蘭西の國權を擁護して、外に對する佛蘭西の自由を確保すると云ふことになつて居る。其の綱領の文字は簡單であるが、要するに佛蘭西國民全體の利益を主とするものであり、社會主義者の言ふが如くに、一部國民の屬する小なる團體即ち勞働者其のものゝ利益を計るものでないと云ふことが、其の主義の大本である。又佛蘭西國の外に對する自由を保護するとか、或は佛蘭西の國權を擁護するとか云ふことは、要するに他の國より不正の壓迫を受けないで、國際關係上常に正義自由の地位に立ち、何處迄も名譽を以て立つといふ主義であつて、此の堅實なる觀念が現れて、佛國今日の國防充實となるのである。彼のブリアンが陸軍問題に付ては華府會議

に於て成功したりしも、海軍問題に付ては失敗したりし時に、ブリアンを先づ第一に攻擊し、彼れをば首相の地位より引き摺り降ろしたものは、即ちアクションフランセーズの團體であつた。今日の新聞紙によると、華府の海軍條約は批准されないとある、然り其の通りである。私は本年二月佛蘭西のル・タン紙即ち半御用新聞に華府條約を愚弄する論文の掲げありしを見たのである。又議會の議論を見ましても、『あんなものは批准すべきでないと明かに言はれて居り、是が佛國民に謳歌せられて居たのである。然るに今時分になつて、日本人が是を見て狼狽するの風あるは、餘りに迂愚也と批評せざるを得ない。斯やうなる次第で、佛蘭西と云ふ國の思想界はナショナリズムに固まつて居る。今日に於ても札付の共産的社會主義者は、いくらも巴里に居るには居る。而して彼のカシャンと云ふ共産主義の頭領は常に莫斯科に往來し、露の共産主義者と相呼應して運動し、依然として共産主義の新聞を發行して居るのであるが、如何に彼等が運動しても、今日の佛蘭西の中堅國民を動かす事を得ない。今日の佛蘭西を支配して居る思想は、彼等社會主義から云はして見れば、インターナショナリズム也と云ふであらうが、高所に立つて佛國國民全體を見るならば、彼の國は堅實なるナショナリズムの國なることを看取し得るのである。

（二）

獨逸にも亦佛國と同じ樣に、一九一九年以來一つの國民主義の團體が出來てゐて、其の團體は全然佛蘭西のアクションフランセーズと同じやうなものである。此の團體は最初獨逸の南方バイエルン即ちバーバリヤ國に生じたものであつて、大戰終期の彼の獨逸の革命の後に、スバルタカス團と云ふものが獨逸に起つて、ボルシエビーキの本陣よりラデックと云ふ一人の男が獨逸にやつて來て金を撒き散らし、獨逸のリーヴクネヒト其の他の札付の社會主義者を應援し、是と一緒になつて、腕力と武力を以て獨逸を共産主義化せんとした事があつたが、是に對抗してバイエルンに於て初めて起つたのが、即ち愛國的の護鄕團と云ふものであつた。之に屬する團員の大部分は在鄕軍人であつた。此の團體は武力を以て起ち、スバルタカス團を掃討したのであつた。其の護鄕團はヴエルサイユ條約の結果として、軍人として存立する事を許されなかつたが爲めに、一變して一つの社會的オルガニザチオンとなつたのである。即ち當時林務官をして居つたエッシュリッヒと云ふ愛國者がオルガニザチオン・エッシュリッヒと云ふ一團體を作つたのである。是が佛國に於けると同じく、國民主義を以て其の綱領となし、堅實有力に社會主義者及び共産主義者に對抗したものであつて、今日のバイエルン國民は獨逸中に於て、最も憂國的人民たること世界周知の事實である。彼等は非社會主義的である。而して此の團體は今日に於ては獨逸全體に亙りて、其の勢力を有するに至つたのであ

る。是に屬する團員は、或は彼の休戰條約を締結したるエルツベルガーを暗殺し、或はゾチアル・デモクラーテン黨のシャイデマンを暗殺せんと試み、暗殺を以て彼等の憎惡する非愛國的の名士を一掃せんと企てた。暗殺其事は良いとも云へないが、彼等が如何に獨逸國全體の爲めに熱烈なる愛國心を有して居るかの點に付ては大に賞贊すべきである。

然らば此の團體の綱領とする所如何と云ふに、獨逸は共和主義に變じたるにせよ、兎に角獨逸の憲法は獨逸の國本であるが故に、之を擁護することを宣言し、又法律を尊重して獨逸の秩序を維持するの要を主張し、單に勞働者階級の利益のみを唱へずして、獨逸國民全體の利益即ち勞働及び資本兩者の利益を圖ると云ふことになつて居る。獨逸の秩序を維持すること、即ち直接行動に依つて、社會主義者等が折り〳〵亂暴をする、此の不法行爲に反對する事が、即ち法律秩序を維持すとの精神に由るのである。佛蘭西のアクションフランセイズの主張と少しも異る所はないのである。唯憲法を擁護するといふ文句は、佛の團體には特に掲げてない所である。兎に角國民主義を以て立つて居る有力なる此の獨逸の團體は、獨逸國民全體の隆昌を圖る爲めに、極力共產主義者及び社會主義者に對し反抗して立つて居るが故に、今日如何にマルクが下がらうとも、又如何に經濟界が困難であらうとも、獨逸は斷じて露西亞の如くに、一朝にして共產主義化するとか、赤化する事はあり得ないのである。日本には戰前には獨逸に對して非常に同情を表する人々が多くあつた。又戰前には極端に獨逸を買ひかぶり、非常に獨逸を崇拜し、獨逸を研究する人が多くあつたが、戰ひ敗れ、戰後彼等が共和主義の國と一變するに至るや、大いに此等日本人の態度は變じ來つて、今は獨逸國內の一般事實の研究を進めて居るもの甚だ少なく、唯留學生等が其の懷中の溫き所より獨逸人を輕侮して、之がために獨逸人の恨みと憎みとを買つて居るに過ぎないと云ふに至つては、日本人の輕薄を慨かざるを得ない。獨逸の現在は、ババリヤ方面は上述の如くに全然國民主義である。然らば其の中央はどうかと云ふと。ゾチアルデモクラーテンと云ふ黨派即ち多數社會黨で、斯く云ふと彼等は社會主義者の如く聞こへるが、彼等は決してリーヴクネヒト一派の唱へたる社會主義の人では無い。彼等は今や全く一種の國民主義的民主黨となつて居るのである。其の實證としては、本年の二月獨逸で鐵道工夫の同盟罷工の起つた時に、獨逸中央の現在の政府は、其の同盟罷工に對して極力壓迫を加へたのであつた。或は罷工者を牢に投じ、或は罰金を課し、兎に角法律と權力を以て、何處迄も彼等を壓迫したのであつた。若しも政府が社會主義を尊重する政府であるならば、同盟罷工は罷工者の權利である可きが故に、政府とても之を壓迫する權利は有して居る筈はなく、何處迄も勞働者を助けてやらなければならぬ筈であるが、社會の秩序を害するものとして政府は極力壓迫したのである。是に依て見れ

ば、今の中央政府は社會主義の政府にあらずして、デモクラット黨である事が解る。獨逸は今や明かに國民主義の國である。それにも拘らず日本に於ては、獨逸は依然社會主義者を以て充たされて居るかの如く考へて居るものあるは、時勢を知らざる迂愚より生ずる結果である。

（三）

次に更に國民主義の實例として伊太利に付て述べようと思ふ。伊太利にも亦一九一九年以來同じやうな國民主義の團體が出來て、伊太利語で之をファスチスチーと言つて居る。是が一九一九年以來非常なる活動を開始して、遂に血を流して共産主義者及び社會主義者を傷け或は殺戮し、又自己の屬する團員の間にも多くの死傷者を出したのである。伊太利の社會主義者は一九一九年より一九二〇年にかけて、露西亞のボルシエビーキより運動費を貰つて、伊太利全體を赤化せんと試み、其の運動に着手して、幾多の市及町村に於ては、工場は悉く勞働者に占領せられ、工場に赤旗を立てゝ、勞働者の管理に屬した事件の生じた事があつた。此の時ミュッソリニーと云ふ一人の代議士は本來社會主義者であつたが、俄然として國民主義を奉じ、若し伊太利を共産主義者及び社會主義者の爲すに委せて置くならば、遂には崩壞して救ふ可からざるに至るを憂慮し、在鄕軍人を率ゐ、自己の有する新聞を利用し、國民に向つて大いにプロパガンダし、武力と腕力とを以て、社會主義者の赤化運動を阻止したのであつた。是れ則ちファスチスチーなる團體の起りで、最初彼等は烏合の衆に過ぎなかつたのであるが、今日に於ては百十萬の堅實なる黨員を有するに至つたのである。本年三月私はジエネヴァに於て、懇意なる伊太利の一貴族と此の事に付て種々話をした事があるが、彼の云ふには、黨員はどの位居るか其の數は判らないといつて居つた。黨員は日に〳〵增加するのであつて、今は有らゆる青年之に投じ、貴族も入り勞働者も入り、有力なる人は悉く此の團體に加入すると云ふ有樣である。彼等は一種の制服を着け、軍隊組織を成して運動をなすのである。彼等は何時でも首領の召集に應じ、腕力武力を以て共産主義者及び社會主義者に對抗し、之を壓迫するのである。西洋の新聞殊に伊太利に接する瑞西及伊太利の新聞には、殆ど毎日此の種の事實が掲げられて居るのである。到る處に於て彼等は直接行動をなし、工場を逆に占領して、共産主義者及び社會主義者を追ひ拂ひつゝある。最近ボロギア市の市長が餘りに社會主義者の言を聽いたと云ふ所より、彼等は非常に之を怒り、伊太利の各地より五萬の團員は集り來り、ボロギアを占領して市長を逐ひ、更に社會主義者の施設したる設備の一切を打破し盡したのであつた。是がために伊太利の内閣も辭職せねばならぬと云ふ大問題に迄なつた。此の事件が日本に初めて電報せられて、漸く此のファスチスチーと云ふ名を初めて聞いた人が日本には多いのである。然るに此の團體の實質はどう云ふのか全然

不明である所からして、日本の新聞に好く紹介せられなかつたのであるが、此の頃亞米利加の新聞より此の團體の事を轉載して、邦人に傳へるやうになつた。此のファスチスチーは武力と腕力とを以て反對者たる社會主義者を排斥するものである。而して最も活動を爲した一事件は、例の文豪ダンヌンチョのフユーメ占領事件である。ダンヌンチョは有名なる演說者であり、詩人であり小說家であり、又金も勇氣もある人であつて、一つの國民的運動を起し、ファスチスチーの黨與を率ゐてフユーメを占領し、あの世界的の大事件を惹起したのである。此の團體は常に大活動をなして、伊太利の社會主義者及び共產主義者を武力と腕力とを以て倒すに努力して居る。此の運動は既に四年も續いて居るのである。日本人にして伊太利を歩く人はある、乍併伊太利を知る人は少ない。伊太利は政治上渾沌として居るから、ファスチスチーの如き手荒な運動が起つたと批評し、甚だしきに至つては、伊太利は最も劣等なる國である、伊太利より何等學ぶものは無い、ファスチスチーの如きは蠻行なりなぞと云ふ愚論者もあるが、さう云ふ僻目を以て見ずして、今日の伊太利は佛獨にも劣る所なく、如何に國民主義の運動に熱烈であるか、伊太利が如何にして赤化より救はれたかと云ふ重大の問題を考へねばならない。百萬の在鄕軍人は大戰中戰塲に於て其の生命を賭したりしのみならず、現に伊太利國民全體の利益のために生命を捧げて働きつゝある。此の偉大なる精神は大いに買つてやらなければならぬ。是だけの重大事件が今日に至る迄日本に知られざりしは、日本人の迂濶なる事を證明して頗る遺憾である。日本人としては今日からでも、此の事實に付て學ばなければならぬと私は信ずる。伊太利の國民主義運動も矢張り一九一九年以後の出來事であつて、佛蘭西、獨逸及び伊太利の三國は同じ時代を劃して、同一なる國民運動を起すに至つたのである。而も其の運動が引續き常に行はれ、一時的の反動ではなく、實に新時代の新運動であり、其の運動は有効である。之に反し社會主義の勢力は日に〳〵退縮し、其の叫びは晩秋の蚊の聲の如き憐むべき調子がある。此の國民運動は、歐羅巴を支配する所の最も新しい事實、最も新しき大勢と言はなければならない。

然るに日本に於ては、何人も斯る大勢を洞見する所なくして、世界は最早インターナショナリズムに支配せられつゝある、國民主義は既に亡びたと唱へ、又世界は絕對的に平和のものとなれる如くに考へて居る者が頗る多いのであるが、是は非常なる時代錯誤の觀念である。而して此の誤見謬論に對して、現實に痛き熱き嘲罵を加へたものが、即ち希臘と土耳其とは各々國民の抗爭よりして、遂に最近の戰爭を開始し、土耳其は勝利を得、遂にコンスタンチノーブル迄迫ると云ふ一驚すべき狀況に進んだ。我が日本の誤れる論者が世界の大戰以後には、

最早歐羅巴には再び血を見るが如き事はあり得まい、最早歐洲人は悲絶慘絶なる彼の狀態に懲りて、再び兵士を動かすが如き事はなからうと稱し、物識顏して居たのであるが、此の土耳其人と希人との交戰に對して、彼等は如何にその過を世人に謝するのであるか。

（四）

此等歐洲に行はるゝ運動は、亞米利加にも存在して居るのである。崇米の日本人は云ふ、亞米利加は今日も尙ほ平和の國であり、非軍國主義の國であると。乍併之は全く眞赤な嘘であり、今日の米國を知らぬ人の言である。亞米利加の在鄕軍人が如何に國家的運動に活動して居るかを左に述べて、日本人の誤解を解かう。亞米利加の在鄕軍人は英語にてリージョンと稱して居る。米の軍人は一九一九年二月巴里に於て其の建設を計畫し、而して四月に至り亞米利加本國に於て之を成立せしめたのである。由來亞米利加は多くの協會を作る國であるが、此の在鄕軍人團は突然に成功した一大協會であつて、短日月の間に忽ちにして六十萬人の會員を有するに至り、何百萬圓と云ふ大資金を有して、團體のために雜誌を週間に發行し、而も其の會員は六十萬であるに拘らず、此の雜誌は毎週七十萬部も賣れると云ふ狀況である。而して亞米利加の在鄕軍人團の目的は、矢張り社會主義者共產主義者及び無政府主義者を打ち平げるにある。即ち國民主義を奉ずるものである。唯歐羅巴と異なる所は、勞働者の罷業問題に付ては直接干涉しないといふ點にある。從て鐵道工夫のストライキが起つても、彼等は何等直接干涉する所がない。其の事の良否は別として、其の點は歐洲のと違つて居るのである。而も米人の目的とする所は、社會主義を倒し無政府主義を倒し、而して在米人全體を亞米利加化し、以て玆に一大亞米利加國民を建設せんとするにある。それ故に彼等は日本人が亞米利加に同化しないと云ふ所より、極力日本人を排斥し、此の事に付ても、現在米國の在鄕軍人團は、其の急先鋒をして居るのである。日本人から之を見れば甚だしく不都合であるが、彼等は亞米利加人であつて日本人では無い。其れ故に亞米利加國民のために盡くさうと考へる所の彼等として當然と云へる。米人として日本人の感情を一々考慮し、日本人に遠慮する理由はあり得ない。亞米利加人の立場より論ずれば、亞米利加全體に利益を及ぼす事件であるならば、米人の爲にのみ利益を主張するを正しとするのである。其の精神を以て彼等は在米の外人を悉く米人化する事を必要とし、日本移民の排斥を爲して居るのである。今日の新聞を見ると、米の在鄕軍人團は、亞米利加から移民を全然排斥しようと唱へて居る。又在鄕軍人團は亞米利加の物價調節の爲めにも働いて居る。兎に角彼等は社會的にも國際的にも働いて居るのであつて、其の働いた結果は種々の點に於て有益に現はれて居る。之を一々御紹介する必要はないと考へるが、兎に角彼等の團體には、

失業者の紹介部や法律顧問部なぞの機關があつて、議會に提案し法律を制定して、團員の利益を計る迄の勢力を有つて居るのである。日本の新聞雜誌記者等は此の團體に重きを措かずに、却つて惡口を言つて居るものもあるが、實際一つの大勢力であつて。出征せる二百萬人中六十萬人の一大會員といふものゝ勢力は、如何に偉大であるかを想像される。特に此の團體の綱領なるものが頗る參考となるのであるから、之れを朗讀して御參考に供する。此の綱領は今述べた獨逸、佛蘭西及伊太利の國民主義團體の綱領に更に種々なる事項を加へたものである。

神及び國土の爲めに吾々は玆に相結束して、左の趣旨を遂行せんとす。

米國の憲法を擁護し、法律及秩序を維持し、米國主義を徹底的に涵養して不朽に傳へ、世界戰爭に於ける實歷を記念し、社會國家及び國民に對する對人の義務心を喚起し、正義をして權力を主宰せしめ、地上に於ける平和及び善意を增進し、公平自由及び民主々義の綱領を扶持して之を後昆に傳へ、我等僚友相互扶助の途を盡し、以て濟美の實を收むる事。

此の綱領中注目すべきは、米國の國民主義を確立すると云ふ點であつて、總ての人をして亞米利加式の國民たらしめざる可からずと云ふのである。今日の亞米利加は亞米利加主義の建設に熱中して居るのである。是は決して唯單に在鄕軍人の間にのみ行はるゝ聲に非ずして、亞米利加人全體の聲なりと判斷する事が出來る。又綱領中に個人の義務心を喚起するといふ一項を特に加へて居る事も注目すべき事柄である。歐羅巴人及び亞米利加人は權利のみを主張して、義務を怠る可からずと戒めたものである。我等日本人は之を觀て大に覺らなければならない。今日の日本人は甚だしく義務心に缺けて居るのである。之れ日本人の缺點である。其の他に付ては特に說明する程の事もないが、兎に角是程の立派な綱領を揭げて、偉大有力なる團體を作つた彼等は、彼等の力に依りて亞米利加人に軍國的精神を注入し、以て亞米利加國民といふ一大國民を建設しようとして居るのである。上述の如くに歐羅巴に於ても同樣大國は何れも皆國民主義であつて、小國は皆是に倣つて無論國民主義を持して居る。亞米利加の如くに平和の國又は自由の國と言はれて居る國そのものが、既に明かに國民主義であり、排他的であり、何處迄も他の國民と對抗して起つと云ふ決心があるのである。然らば日本と雖も矢張り國民主義を以て起たなければならぬ事は、世界の大勢上當然である。人或は唯學究的の空論に走つて、亞米利加の國民主義は理想としては良くないと云ふものがある。乍併さう云ふ議論は別として、歐米列國民現在の事實が右の如くである以上は、我等日本人も此の世界的大勢に順應して、同樣の方針を以て進む事が必要であるのは申す迄もない。而も其の團體の中心人物は、何れも皆在鄕軍人である。彼等は四年有半の戰鬪に生命を賭して、各々其の國民の爲めに

戰ひ、而して戰爭の熄んだ後に於ても、彼等は決して一時的の愛國者にあらずして、依然として其の國民の爲めに盡すの大精神を有し、今日は依然として其の生命財産を犧牲として、自己の屬する國民の爲めに盡しつゝあるのである。日本の在鄕軍人も亦勿論さう云ふ觀念でなければならない。在鄕軍人は現役を去つたならばそれで御用濟と云ふものではない。在鄕軍人は碁を圍み將棋を弄んで居れば、それで可いと云ふ如きものではない。今日歐羅巴の在鄕軍人團の爲す所は斯くの如くであつて、國民の爲め社會の爲めに不斷に盡すと云ふにあるならば、我等は同樣なるを要する。眞の在鄕軍人は斯くなければならない。此の點に於て私は特に諸君の御考慮を煩したいのである。

* * * * * * *

然らば日本には差當り彼の伊太利の如く佛蘭西の如く又は亞米利加の如く、社會的に盡すべき問題がないか、研究すべき問題がないかと云ふに、私としては非常に問題の多い事を感ずるのである。今述べたる如く、現今日本の新聞記者、日本の學者、日本の政治家の頭は、何れも皆社會主義的になつて居つて、軍備を詛ふ事が文明であるかの如くに考へて居る。インターナショナリズムが即ち今日世界を支配する觀念であるかの如くに唱へて居る。之を先づ打破し、新局面を展開する事に我等は努力しなければならない。社會主義的觀念の流行する所に、無論軍備を詛ふの觀念は必ず生ずるのである。而して我國に於て何故に今日の如く甚しく軍備を詛ひ、軍人を輕侮するの風が起つたかに付き、其の原因を研究せねばならぬのであるが、それに付ては、日本人は國を擧げて世界現在の新事實を知らずして、社會主義化しつゝあると云ふことが一つ、世界の新事實に付ては、今述べた事實で明かである。之に付ては私共が歐羅巴及び亞米利加の新事實を筆と口に出來るだけ國民に說いたならば、國民には早晩領解せらるゝであらうと信ずる。其の以外に尙ほ二三の原因がある。而して其の最も有害なる原因は、國際聯盟に關する曲解と、華盛頓會議に關する誤れる宣傳との二つである。此の華盛頓會議と國際聯盟の實體とに付て、矢張り日本人の間には甚しき誤解がある。又日本の國際聯盟協會は「國際聯盟」なる一雜誌を發行して居つたが、それを一讀するときは、實に憤慨すべき排軍備的議論が多いのである。斯かる議論は日本の爲めに有害であるのは申す迄もなき事であり、日本の有力者中にもあの國際聯盟協會の雜誌は有害であると言つて居る人があるのを私は知つて居る。あゝ云ふ社會主義的の事を言つて日本に宣傳し、之を日本の貴族や富豪や外務省が尻押をして居ると云ふは驚く可き事である。第一國際聯盟が平和の爲めに果してどの位の効力があるかを日本國民に知らせたいと私は思ふ。早い話が二年前に於けるポーランドと露西亞の戰爭、即ちボルシエビーキが百萬の大兵を以てポーランドの首都ワルショーに侵入し來れるあの大戰爭、ポー

ランドの十四歳以上の男子は皆戰場に立つたと云ふ彼の大戰爭は、日本人の頭には餘り響かないのであるが、兎に角ポーランド國民は生命を賭して戰つた。其の時國際聯盟は一兵を出すに盡力せず、何等の役に立たなかつたのである。國際聯盟なるものが、國家と國家と兵力を以て爭うた時に、何等の役にも立たぬ事は、露波の戰爭によりて既に證明されたのである。加之最近更に此の證明を濃くした事件がある。そは今度の希臘と土耳其の戰爭である。是に付ての國際聯盟は何の役にも立たない。即ち今後國際聯盟なるものは、戰爭を豫防し暴者を懲すに於て、役に立たないと斷定して然るべきである。理論としても、國際聯盟規約は戰爭を禁止して居らないのであつて、唯單に戰爭開始の手續を少しく面倒にし、突如として開戰し得ない事に定めたに過ぎない。國際聯盟規約には、全然戰爭を爲す可からずとの禁止條項は無いのである。是れ誤解すべからざる點である。國際聯盟規約中に唯漠たる文句を入れて置きながら、戰爭がそれに依つて無くなる理由はない。條文は佛文と英文とにて出來て居るが、佛文と英文とは異る點もあるから注意を要する。兎に角あの聯盟の條約文は、決して平和の保證とならない事を理解するを要する。此の規約中には軍備の制限と云ふことも掲げられてある。併し乍ら軍備制限には二つの條件を附してあつて、其の條件の範圍内にて行はる可きものとせられてある。セキユリテ・ナショナール即ち國民の安寧を保ち得る事が其の一つである。セキユリテ・ナショナールは外界との關係によつて定まるのである。生きた世界は時々刻々に變化し行く事勿論であつて、太平洋上の日本帝國其のものは、幾干の軍力兵力を有して居たならば、國民の安寧は保たれるのであるか、日英同盟を破壞したる後の日本は、以前の兵力と同一にて可いのであるか、日英同盟が無くなつたとすれば、即ち孤獨の力にて日本及び東洋の平和を維持すとすれば、日本には益〻兵力は必要ではないか、甚だ漠たる問題となり、此の點のみにても、容易には軍備制限はなし得ないのである。第二の條件たる「共同の義務を履行するに要する兵力」と云ふ事に付ても、之を判定するは容易でない。四國協定成立して、日本が護衛する區域は全太平洋に擴げられた。是れ印度を護るよりも範圍が廣くなつたわけである。然らば軍備制限どころの話ではない。日本の政治家や記者は空漠なる論を主張し、到る處人民に演說して、賣國的に日本の軍備を呪ひ、吉野博士の如きは、日本の軍備は東洋の脅威だとさへ暴言して居る。彼等は何れも社會主義者の亞流である。

彼の華盛頓會議にしても、外務省の連中は大いに其の成果を誇つて、太平洋の空は晴れたりと喜んで居るのであるが、是は危險なる宣傳である。華府會議以來日本の國防は危殆に瀕して居るのである。華府會議に付ては、色々論ずべき點がある。先づ例の海軍比率の問題に付て述べて見よう。

私の意見にては、眞に平和を欲するならば、戰鬪艦全部を相互に廢止する事を約束するのが至當である。それを容れぬならば、双方の力を對等に定めるのが至當である。斯くする事が最も正しい方法である。此の理義の下に海軍制限の條約が出來上るにあらざれば、日米間の平和は保たれないのである。華府會議に行くに先だち、私は「海軍力の對等」と云ふ事を主張し、之を新聞雜誌に掲げたのであつたが、世人は之に對し理論としては可いが、斯かる事は實際に於て行はれないと批評した。即ち日本の當局の頭、海軍專門家の考にては、初めから不平等の比率說を持して居たのであり、遞減的に比率を定むるの頭であつた。何んたる卑屈の考へでありますか。是は出發點に於て誤つて居たのである。華府會議の出來上つた結果如何を見るときは、日本と他國との關係は不平等であるけれども、或る重要の點は全然平等主義に基いて居るのを見出すのである。英米の間竝に佛伊の關係がそれである。日本の對者は米國である事明白なる以上は、英米の關係の如くに、日米の關係は同等對等でなければならない。日本の六に對して米の十の如きは不當である。國家平等の原則に反するものである。米の海軍卿デンビー氏は勞働者の大會に於て、華府會議の眞最中に五千餘人の來會者の前に於て演說して曰く、『米國の海軍は何れの國に對しても平等即ちイクォルでなければならぬ』と。之れ米人が平等主義の正しきを日本人に宣言したものである。然るに日本人は卑怯にして、日本委員は之を主張し得ず、加藤全權は『日本は米國と海軍の平等を要求せず』と明白に宣言せられたのであつた。之を佛國全權の態度に比したならばどうか。佛國全權は英米合同の激烈なる反對と米國新聞の脅迫とを物ともせず、昂々然として潛航艇に付ては、少くとも英國との平等を主張したのであつた。之れ眞に國家を辱しめざるの態度と云ふ可きである。伊太利はどうかと云ふに、彼れも亦外交の何たるを解し、佛國と伊太利とは同一の富、同一の領土を有せざるに拘はらず、國家平等の主義により、佛蘭西と平等（エガール）の海軍力を有せざる可からずと云ふ事を主張し、固く執つて動かず、遂に此の主張は成立つたのであつた。然るに日本の全權はヒューズの案の示さるゝや、內外新聞記者を招いて米國案を謳歌し、『是れ徹底の案也』と斷言せられたのである。然るにブリヤンにしてもシャンツエルローでも、斯かる輕卒な斷言は決して爲さなかつたのである。外交家としては勿論此の位の用心深き態度を必要とするのである。

主力艦隊は對外的主要の武力である。國家は平等也と云ふ以上は、此の對外力は必ず平等たらしむるを法律上の原則とせねばならない。條約を以て十年間の久しきに亙り、不平等の力の維持を確約する如きは、之れ國家を辱しめたるものであると私は信ずる。然るに日本人中には、米國の示したる海軍案に對して、之を結構至極の案なりと賞めたものが多々あつた。私は其の卑劣なる觀念

に憤慨したのであつた。假令日本の全權にして英佛伊人以上に有能なりしとするも、斯かる卑劣の日本人を背後に有して居つては、外交は困難である、眞に痛歎すべき事である。國家は國際法上平等である事は、恐らく何人も承知して居るであらう。然らば此の平等とは何を意味するのであるか、人口や、國土や、富に於ては、甲の國家と乙の國家と決して同等のものたる事を得ない、必ず其の間に相違がある。然らば國と國との平等とは何を意味するかと云ふと、『法律的に平等也』と云ふ事である。然らば條約即ち法規を以て不平等の力を認め、之を動かし得ざるものとなす事は、之れ法律上に不平等を認めた事となるのである。事實上に不平等の地位にある事は、法律上の平等と云ふ事とは同一の意義ではない。海軍條約を以て海軍の競爭を中止せんと云ふならば、必ず平等の力の原則に立つを要する。然るに日本人中には此の正理觀念なく、此の態度此の觀念の全然缺けて居つたのは、眞に慨歎すべき事であつた。

尙ほ此の海軍力の比率に付て米人の主張する所は、『是は現在勢力也』(エキジスチングストレングス)と云ふにあつた。即ち現に存在する所の海軍の力であると主張したのであつた。其の現在力に付ては前に述べた通り、英と米とは當時既に現在力が違つて居るは明白であつたのであり、米國の新聞紙にも明かに之を認めて居つたのであつた。それ故に日本の委員にして若しも此の點に向つて突込んだならば、米人の主張の基礎の崩れること疑なき所であつた。然るに日本人は卑怯にして、英米の關係即ち外國の事に付て口を出すは正しからずと稱し、唯單に日米間の十對六の關係のみに付て押問答をして居つたのである。然らば日米海軍專門家間に行はれたる問答は如何と云ふに、日本側にて計算すれば、米の十に對して日本は八となり、又現在力の基準を噸數のみに依らずして、砲や速力や艦の新舊等の點より計算せば、色々と比率は變化するのであつた。現在力を米人の如くに噸數を唯一の基準として計算するの理由は決して無いのである。それ故に『現在力の定義如何』を米人に說明せよと迫りし所、彼等は全く答へ得なかつたのである。然らば此の成行を世界に發表せんと主張せしも、彼等米人は秘密にせん事を日本人に乞うたのである。即ち米人の云ふ所は、正義でも事實でも又理論でも何でもなく、全然策略然も日本を愚にしたる策略であつた。然るに輕卒なる日本人が之を全然承認するに至つたのは、如何に日本人が外交に闇し幼稚にして、國家觀念の薄弱なるかに驚かざるを得ない。如何なる脅迫を米新聞が日本人に加へようとも、斯る場合には日本の新聞記者、日本の論客、或は日本の政治家は、佛人の如くに全然固き國家主義で行かなければならない筈である。如斯結果となりしは、是は前に述べたる如くに、今日の日本人は何人も皆インターナショナリズムの觀念のみ强くして、ナショナリズムの觀念薄く、ナショナリズムを固く唱ふる事は罪惡のやうに考へて居る人

が甚だ多いからである。蓋し是は非常なる誤りである。日本人は今日の世界の大勢に順應する事が必要である。其の大勢とは即ちナショナリズムである事である。日本人は日本人としては其の一切の生命と財産とを擧げ、國家を護らなければならない。斯かる氣分を大至急日本人の間に充分に養成せざる可からずと私は主張するのである。

私の最も尊敬する海軍の專門家加藤寛治中將は米國の新聞紙上に公々然として七割說を唱へられた。戰史に基き七割でなければ、國家の防禦は全うし得ずとの明確なる說を公にせられた。之れ何人も謹聽すべき義務ある說であつた。戰史を根據としての此の議論は、最も有力なる議論であつた。此の七割でなければならぬと主張せられたる意見に對しては、日本人は絕對に信を置くべきものと私は固く考へて居る。然るに在米の日本人は、何れも皆卑怯にして世界の大勢を知らず、米人の心底も窺ひ得ず、終に此の說も容れられずして、結局削られたのであるが、定めし加藤中將は腸九回の痛烈なる悲歎を感ぜられたる事と御察し申す。此の七割問題は德川公一人のみが過失あるものにあらざるは云ふ迄もない。日本の國防は七割でなければ危險であるとの專門家の說あるにも拘はらず之を六割にして、國際條約を結ぶといふ事は、之れ專門家を愚弄視するか、然らざれば國防を犧牲にした事となるのである。是れ決して國家の名譽では無いと信ずる。

亞米利加は又三萬五千噸級以上の艦を造るべからずと主張したのであつた。是は何故であるか。此の問題に關しては、今日にても尙ほ其の理由を知らぬ人が大分ある。唯大きな艦は不便であるからとか、經費が大であるからとか考へて居るが如くであるが、そは大なる誤りである。私は佛蘭西人の著したる好評噴々の書物を以て此事を說明致しますが、此の書物は佛國海軍の一專門家ルブール中佐の書いたものである。之を讀むと、巴奈馬の地峽は四萬二千噸以上の艦船は通過し得ないと云ふ事を巴奈馬地峽の幅員及び深さの點より明白に論じて居るのであり、之が爲めに米國は日本が大艦主義を取るに至るを豫防したのだと釋明して居る。若しも日本が五萬噸級の大艦を作りて、敢然として野謀ある米國と競爭を始め、之に對して米國が日本に讓らないとすれば、米國は少くとも日本に三倍する艦隊を有せざるべからざる事となる、斯る事は如何に米國が財政豐富であつても出來得ない。是れ米國が此事を秘して、三萬五千噸に止めんとの問題を提出した理由である。如何にも秘策縱橫の處置である。當時日本人にして一人として此事を知らなかつたとしたならば、日本人の其の國家に對する責任は實に大であると私は考へる。米國は戰爭中百萬弗位の大なる收入があるものに對しては、所得稅として七割何分の徵收をしたものである。戰後米人の懷中不如意にして、其の米國の財政の困難なりし事は、何等疑ふ所はないのである。然らば米國は外形としては其の財

政が日本に比して大なるが如くに見えても、左樣に大きな艦隊を造る事は出來ない。それだにも拘はらず、唯だ米人の言ふ所に屈從し、十對六に定めたと云ふ事は、失態と私は敢て言ふものである。若しも自己の自由を以て、米國が十であり、日本が六の程度であると云ふならば、這は唯だの自然であり、何等の不都合はない。併し乍ら之を法律的に條約を以て束縛するは、國家の體面上失態である。條約を以て海軍率を定むるならば、必ず平等主義に立たなければならない。佛蘭西のブリアンは陸軍の問題では非常な雄辯を揮ひ、之に成功したりしが、乍併海軍の問題に付ては、英の五に對して一・七と云ふやうな情けない比率に服從したと云ふ所から、佛國の國民は之を怒り、彼れを政界より葬るの運動が起つたが、是は國民主義の佛人としては尤もだと思ふ。華府會議中ブリアンが佛國陸軍現勢維持の必要を說いた時の雄辯は、實に非常に猛烈なるものであつて、英人も米人も其勢に捲き込まれ、終にブリアンの言を承認したのであつた。然るに海軍問題に就ては、彼れは國民の希望に反する條約を結ぶに贊成し、此の事を海軍の專門家にも秘して居つて、後に至り此の事情判明し、之を知れる佛國海軍々人及びアクションフランセーズに屬する愛國者を非常に怒らしめたのであつた。ブリアンは初めより大なる主力艦隊を以て、英人と爭ふの考へは持たなかつた人である。彼れは初めより潛航艇に重きを置いた人であつた。而して巧みに英國のやる事を嘲弄して

居つたのである。佛人としては、初めより主力艦隊に重きを置かざりし事は何等疑なき所である。併し乍ら英の十に對して佛の三と云ふ事は大なる屈從であり、又佛伊海軍の平等は佛人の危險視した所である。それ故にブリアンの政策に對して佛人は猛烈に反對した。ブリアンは他にも政治上の過失があつたが、主として海軍問題の失敗に引責して辭職をした。而して當時佛蘭西の御用新聞ルタンの如きは、華府の海軍協約はつまらぬものだと批評し、米人にして華府條約に留保附批准を爲すならば、佛人にも此の自由ありとの說を揭げた。議會に於ける議員の論じた所に之を聞くも、あ云ふ馬鹿々々しい條約は、佛國としては承認する事は出來ないと云ふのであつた。それは即ち本年の二月中旬、佛國に表はれた事實である。即ち今日より十箇月以前明かに世界に知れ渡つて居つた事實なのである。然るに日本人が今時分になりて、佛伊兩國の批准なきを憂慮したり、又佛國は不都合也と惡評したりする如きは、餘りに世界の事情に疎きを世界に廣告する樣なものである。

華盛頓會議に於て、米國人の非常なる誇りとして居た點は、何れの黨派に屬する新聞紙にも大きな題目を揭げて、『十年間の休日』と云ふことを唱へた事である。併し乍ら此の『十年休日』と云ふ事に付ては、條約の結果によると、唯單に日本一國のみの事であつて、英も米も十年のホリデーを取らないのである。即ち英國は超フード型二隻を新に造るの權利を得て居る。一隻の噸數各三萬五

千噸と云ふ大艦を有らゆる最新の科學を應用し、有らゆる最新の設備を行うて、寛る〳〵と作つて行くの權利を得たのである。決してテンイヤース・ホリデーではない。又米國はワシントン及コロラドの二大艦を繼續して、ゆる〳〵と竣工せしむるの權利を得た。是に由つて之を見れば、十年の休息なる事實は那邊に行はるゝかと云ふと、日本一國のみなるを見るのである。況や佛伊は未だ此條約を批准せざるに拘はらず、獨り日本に於ては忠勇なる將校多數を馘り、得難き立派な職工數千を解雇する如きは、之れ日本のみ獨り甚しき不利を蒙るのであつて、而も日本帝國は英米に比して、工業能力の大いに微弱なる國なるに拘はらず、自國のみ獨り十年間造船工業を休廢するは、國家の工業經濟の爲めに非常なる影響と考へる。

更に華盛頓會議に於て協定せられたるもの〻中、批評すべきは四國協定である。是は日英同盟に代つたものであると判斷する人もある。然るに某全權は之に關し洒落れて言つて、『四國協定は日英同盟に代つて出來たものではない、吾等日本人はウイスキーの代りに水を攝つたのだ』と、場所もあらうに米國新聞に掲げさせて居る。是は亞米利加の禁酒即ちドライである所から斯く洒落れたのであるが、ウイスキーの代りに冷水を取つては、餘りに冷淡に過ぎる。もつと熱心に外交の事を行ふ外交家が必要である。四國協定の内容如何と云へば、米國及び英國の太平洋上の植民地を保護する爲めには頗る適當に出來て居るのであるが、日本と米國との衝突は日本から見れば、決して太平洋上の比律賓問題でも、又グアム問題でもなくして、此の問題の生ずる所は、必ず支那大陸及び西伯利にあるのである。然るに四國協定には、此の支那及び西伯利に關しては、一言半句も規定して居ないが故に、日本人さへ國家心に强ければ、日米は何時でも衝突すると云ふ事情に置かれて居る。本來日英同盟は法律的に云へば、決して米國に對抗する爲に出來ては居らないのである。併し乍ら政治的に之を云へば、此の同盟は米國の爲めに大なる脅威であつた。何んとなれば、若し東洋に一旦事あつた時、米國が東洋に進入して來たならば、之は即ち東洋の平和破壞行爲として、其處に日英同盟が生きて來るを以てゞある。それ故に米人は日英同盟の廢棄を主張したのである。米人の爲めには此の恐るべき同盟を米國がいやがるから廢棄しようと云つて、日本の全權は遂に之を廢棄して了つたのである。之を喩ふれば、日本に從來左右の手があつたものとせば、今は其の左の手を失つたわけである。私は敢て云ふ、四國協定は水であり冷水であり、日本の爲めに何等の藥にならない事を。或は又要塞の問題にしても、日本は日本の二千年來の領土上に、要塞の建造を禁じられたに拘はらず、三十年の新領土たる布哇には、立派なる要塞が引續き無限に作られ得るのである。之れ日米間に非常なる不權衡であつて、決して是れ國家對等の觀念に出でたるにあらずと云

ふ事は洵に明白である。是も亦甚だ遺憾な事である。日本國民は日本と米國とは對等國である事を忘れたのであるか。又アリユーシヤン群島に付ても、何等豫めの用意がない。近來米國に於ては、有力者の間にダッチ灣の要塞建設を論ぜられて居る。是れ注意すべき事である。又日本はグアムの現狀維持を約した。佛人の批評を藉りて云へば、是は日本國の爲めに利益であると云ふのである。現狀維持と云ふ事になれば、米國から米國の主力艦隊がグアムに來る前に、日本は之を占領する事が出來ると云ふのである。是れ日本としては適當なる處置なりと佛人は論じて居るのである。併し乍ら現狀維持とは、如何なる程度の事を云ふのであるか、日本人は今日のグアムの現狀を知らない。それ故に現狀維持と云ふ事は何を意味するのか、私には不可解である。此の點は甚だ危險である。

斯くの如くに四國協定一事項のみを研究しても、華盛頓會議と云ふものは、何等日米間に公正と平和とを齎したものと觀る事は出來ない。之に反して日米間のバランスは爲めに全く失はれ、何時戰爭が起るかも知れないとの憂慮を抱くのが、至當な觀念であると私は信ずる。支那や西伯利の問題が錯雜し來らんとする今日に於て、之に關して日米間に何等の保障存在せずと云ふことは、實に日本の爲めに危險也と私は叫ばざるを得ない。何れの點より觀るも、私は華府會議を以て成功なりと稱する事は出來ない。國に忠誠なるものは、斯く考へるのが至當也と私は信ずる。それにも拘はらず日本の都人士中には、會議出席者の効能を述べ立てゝ勳位を得、名利を收めんが爲めに、是は成功である、日米は之によつて仲直りをした、日米は白紙に印を捺して親善を表した、佛蘭西も之に入り、伊太利も亦之に這入つた、是れ賀すべき事である、條約の文句に拘泥する法律家は四國協定を惡く云ふけれども、そは法律屋の議論である、五國が一條約の上に印を捺したと云ふ精神を見よと論じつゝあれども、乍併日米間に唯印を捺したと云ふ簡單な事で可いならば、既に以前より日米協約なる一條約は存在して居る。其の印のみを以て充分である筈である。條約は白紙其のものを云ふにあらずして、條約として書いてある文句其のものを條約と云ふのであるといふことを能く理解したならば、右の愚論の愚論たるを知り得よう。而して此の四國協商が出來た事を以て成功となし、之を以て國民を滿足せしめ、最早日米間には戰爭はない、軍人は日本には必要なしと云ふ風に、日本の國民を導きつゝある現狀は恐るべき惡政策であつて、是は日本國民を文弱卑屈惰弱となす最大原因也と私は考へる。現に青年にして海軍を志願する者は、最近大いに減少しつゝある。兵隊となるのは馬鹿々々しき事也と云ふものが既に澤山ある。是れ列國の現狀に於て見るを得ざる惡風潮であり、斯る現象の日本に于はるゝは、日本の爲めに危險であると信ずる。斯る條約の出來た上は最早詮なしとして、向後亞米利加は軍事に關して如何なる國であるかと云ふ事實を日本人に

周知せしめ、日本國民を大いに警醒せしめなければならないと私は考へる。此の點に就ては、私は雜誌に於て演說會に於て大いに議論して居るのであるが、之れ決して唯單に排米を感情的に云ふにあらずして、公正正義の上より斯く云ふのが必要である。此の道に依るに非ずんば、過誤に陷れる日本今日の現狀を恢復するは困難なりと考へるが故である。

更に露西亞に付て見るに、露西亞の恐るべきは知れた事である。露西亞は現に今日ポーランド人及ルーマニア人より非常に恐れられて居る。彼等は露西亞に對して、前者は二十二萬、後者は十六萬と云ふ大兵を備へて居る。日本としては彼等よりも大國であるだけ、それ以上の兵力を備へるの必要がある。更に之を隣國の支那に對して見るときは如何と云ふに、今日支那は百萬の大兵を有して居る。而して米國は支那の事實上の同盟國或は後援國となつて居る。彼等は結束して日本に對立し、如何にして日本を一擊せんかと其の時機を待ち構へつゝある風が明かに見える。此の事實を詳しく日本國民に釋明することは緊急事である。海軍の比率問題にしても、又は要塞の問題にしても、米國は自由勝手なる擧動をなし、四國協定にしても、日本に不利なる事を敢てし、彼等の壓迫の手は益々東洋に延びつゝあるのである。而して華府會議以後に於て、米國は益々飛行機を增加し、且つ潛航艇を擴張しつゝある。此等の軍備充實は決して獨逸或は佛蘭西に向けらるゝに非ずして、一に東洋特に日本に向けんとするのである。日本人はよく此の事實を注意し、備ふる所なくんば頗る危險である。而して此事に付て何人が中心となるべきかと云へば、其は在鄕軍人である。此の種の事業としては上述の如くに、佛蘭西のアクションフランセーズ、或は米國のリージョンの如く、或は伊のファスチスチー、獨のオルゲツシュの如くに、諸君が其の中堅となられる事、是れ實に必要缺くべからざる事である。支那の吳佩孚將軍は新聞記者、議員及び其の他の人に對して曰く、『先づ日本人を青島より追ひ拂ふべし、是ば既に華盛頓會議に於て巧みに行はれ得たが故に可なり、我等は引續き二十一箇條を廢棄せしめ、米人の力を藉り、來年到來する時期に於て、日本人を旅大の租借地より逐ふべし、而して更に進んで南滿鐵道を奪ひ取り、更に臺灣を奪ひ、朝鮮を舊の如くに支那の屬國となして、初めて日本と支那とは融和する事を得可し』と。彼れは斯く公言して、支那の國民を煽動して居るのである。又顧維鈞の如きも政治上に名をなさんとして、之と同一の事を以て大いに支那人に說いて居るのである。支那人は華府會議に際して、二十一箇條の廢棄を提案したりしが、亞米利加の新聞紙は御用新聞すらも、公然として二十一箇條廢棄を唱道したのであつた。餘りに會議の期間の長引くに至るを虞れて、米政府は是を會議に上程しなかつたのである。決して亞米利加が斷乎として之を思ひ切つたのでは無い。支那人は此の如くにして人に依賴し、再び是を提案せば、

米人は支那を援助するものと信じて居るのである。彼等は口舌を以て、巧みに旅順大連は日本より奪ひ得可しと考へて居るのである。日本帝國が旅順大連を占領しつゝあるは、決して支那より之を奪ひ取つたのではなくして、露西亞帝國より之を讓り受けたのである。而も國運を賭して之を日本の領土としたのである。然らば吾等は是を支那人に奪はるべきものではない。今支那と亞米利加との巧妙なる外交術に翻弄せられて、一夕にして此の領土を彼等に奪ひ取られると云ふ事は、國を赭土となすとも斷じて忍ぶ可き所ではない。若し此の屈辱を忍ばんか、是れ亞米利加の屬國となるの前提である。諸君は此の事實を如何に見らるゝか、日本には崇米恐米の人甚だ多く、現時の米國を理解する人は甚だ少い。古き時代又は一九一九年以前に亞米利加に留學し、又は米國に渡りしものは、今日現在の米國を知らずして、夢の如くに過去の米國を說いて居る。併し乍ら亞米利加に於ける今日の大中學生養成の方法は如何であるか。加之小學校の生徒でさへも夏期休暇を利用して、軍隊の野營場に於て軍事教練を施しつゝある。大學生には豫備將校たるの教練と軍事學とを與へつゝある。彼等の爲す所は、日本に向つての準備たる事疑ふ可からざる所である。

斯くの如き有樣であるに拘はらず、日本の言論界は甚だ輕薄にして、常に社會主義的の言論を弄しつゝある。是れ果して帝國の名譽及び平和の爲めに喜ぶべき現象であらうか。私は歐米に於ける在鄕軍人が、如何に今日各々其の國の社會問題國家問題に關し、身命を捧げて活動しつゝあるかを說いたのであるが、我帝國の今日の毒瓦斯に侵されたる惡空氣を一掃し、之を淸きものとなすには、實に日本の在鄕軍人の大活動に待たざる可かちずと信ずるものである。在鄕軍人即ち中堅たる此の國民は、全體を合せて二百數十萬に上つて居る。而して是等在鄕軍人の手となり足となるべき青年團員を加ふれば、其の數は七百萬人に達するのである。此の兩者が確實堅固の思想を有し、國民主義の觀念を抱いて、恰も佛のアクションフランゼーズの如く、或は伊のファスチスチーの如く、或は米國のリージョン獨逸のオルゲッシュの如くに行動したならば、如何に我國の三文文士や三文政治家や三文記者が惡說を吐くとも、如何に亞米利加化したる非國民が卑屈の言論を弄しようとも、國民の大部分は之に耳を假さずして、我等の正しき主張は國民の間に行はれ、此の皇國は萬歲不易なるべきを信ずるものである。切に諸君の御奮勸を望む。

大正十一年十二月七日印刷
大正十一年十二月[illegible]日發行

非賣品

東京府下豐多摩郡中野町大字中野二七三五
編輯兼發行者　藤田定市

東京市京橋區南金六町十二番地
印刷者　堀水茂

東京市京橋區南金六町十二番地
印刷所　英文通信社印刷所

不許複製

發行所　東京市京橋區築地四丁目一番地水交社內
有終會
振替東京三四一〇四番

393
498

終